

第5回親子ふれあい音楽あそび

企画者：中 村 ますみ

2017年度からスタートしたこの企画は5回目を数え、本センター事業として定着してきた。第4回はコロナ禍において初めての試みであったため、様々な対策の上、音楽活動にも工夫して行ったが、過去最高の参加者となった。第5回においても同様の対策を取りながらと考えたが、感染状況は落ち着くどころか、大学も突然のオンライン授業実施が繰り返されており、計画段階から実施日までの1～2ヶ月先の状況が益々予測しにくい状況であった。そのため、連携する事業所に協力を要請したり、実施日について相談したりすることができない日々が続いていた。児童相談センターの運営委員会において、このことを話題にしたところ、オンラインを活用して行ってはどうかとの意見があった。この意見に対し、筆者自身も他の場で動画と実演を併用しながらの活動を計画していたため、新しい試みとして連携事業所に提案したが、オンラインであれば参加を見合わせたいとの回答であった。その理由としては、以下の2点が挙げられた。

- ①もともと親子での遊びの成立が難しいために事業所を利用しているの、オンラインでの働き掛けでは十分な体験が得難い。(＝対面で行いたい。)
- ②スマホやタブレット、テレビの過剰な視聴傾向があるので(いわゆるスマホ子守)、それを助長しかねない。

筆者としても、いずれの理由も納得のいくものであったため、第5回は学外の事業所や付属幼稚園には連携・協力を求めないことにした。しかし、これまで継続してきたこの取組みを中断することは避けなかったため、学内関係者に限って行うこととして計画を練り直した。【資料1】

実施にあたっては、ある一定の質を担保するため、例年協力いただいている連携事業所に勤務する音楽療法士に協力を要請し、学生たちには、親子の活動支援だけでなく活動提供側(筆者や学外協力者)の活動にも参加できるようなプログラムとした。【資料2】また、前もって活動の参加の仕方、参加の促し方などについて練習の時間を取り、適切なモデリングや楽器提示の仕方を練習した。参加した学生たちは実際に親子を前にすると、緊張しながらも力を出そうと努力する姿が見えた。このことは、参加した保護者(教員)からの感想にも記されている。【資料3】【資料4】

例年と最も異なった点は、参加後の得られた保護者からの感想である。我が子に対する感想だけでなく、活動や環境構成、また教員として学生に対する感想まで、詳細な記載をいただき、これからの参考にしたいと考えている。【資料3】さらに、今回参加協力してくれた学生たちは、かなり詳細な記録を残している。この記録の量を見ても、子どもたちの関わり合いに喜びややりがいを見いだしたことがうかがえる。自身の将来像について、具体的に考える場と自信につながる場として機能したようである。【資料4】

感染状況は未だ収束が見えないが、第6回も引き続き継続していきたい。今回のように継続したからこそ得られたこともあったと強く感じたからである。最大の成果は、人数を制限したものであったため、学生の成長も参加した子どもたちの気付きも、つぶさに観察できたことである。また学内関係者だからこそ、子育て支援のニーズについても、より率直な声を聞くことができた。「ふれあい」の名称にこだわって対面の機会としたことは、やはり必要であったと考えている。参加者にこの場を借りて感謝したい。

【資料1】

《児童相談センター企画実施要領》

1 事業名「第5回 親子ふれあい音楽あそび」

2 ねらい

- 1) 親子のふれあい活動を提供し、子育てのスキルを拓げる機会とする。
- 2) 他の親子とのふれあいの場として活用し、子育てのストレスを分かち合ったり、語り合ったりできる仲間に出会う機会とする。
- 3) 子どもの発達に不安をもつ親に対して、相談の機会を提供する。
- 4) 大学近隣の事業所との連携の機会とし、子育て・教育・保育に関する情報を共有する。
(このねらいに関しては、連携事業所所属の音楽療法士に協力を得たため、例年通りとすることとした。)
- 5) 学生が幼児やその親と接する機会とし、実践力養成の場とする。

3 日程

11月27日(土) 15:30～17:00

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 15:15～ | 受付(自由遊び開始・・・大型遊具も用いて) |
| 16:00～16:40 | ふれあい音楽あそび |
| 16:40～17:00 | 本日の感想記入、相談等 |
| 17:00～17:50 | 解散・片付け |

4 場所

8109、8110 教室

5 参加者

《参加親子》

学内関係者(児童学科教員)とその家族 4組10名(予定)

《その他》

当センタースタッフ 1名(中村)

活動補助学生(アルバイト) 2名

外部音楽療法士 1名 計14名

6 当日スタッフの動き

- 13:30 スタッフ集合・打ち合わせ(練習含む)
- 14:30 会場準備(大型遊具配置・楽器・マットなどの配置・消毒)

- 15 : 15 受付 (8110 教室)
自由遊び (親御さんもいっしょに遊んで頂く。)
*大型遊具で遊ぶ子どもたちの見守り
- 16 : 00 音楽あそび開始
*親子を活動の場へ誘導する際に、大型遊具は 8110 へ移動
- 16 : 40 音楽あそび終了
感想記入及び相談等
*学生スタッフは親子の帰宅準備の補助など
- 17 : 00 解散後 片付け・消毒

7 当日までの準備等

- ・ 予算…手指消毒用アルコール購入費・学生アルバイト経費・外部協力者謝金
(…要関係書類の作成)
- ・ 会場 (8109、8110) の確保⇒教務課へ 施設借用書類⇒総務課
- ・ 入試・広報課への連絡
- ・ 大型遊具使用許可⇒児童学科へ

8 その他

- * この企画は当初 11 月 6 日 (土) に計画されていたものである。計画の詳細を検討する時期に新型コロナウイルス感染症が第 5 波ピーク時であったため、いったん延期し、学内関係者に限って実施することとしたものである。また、実施日時は参加教員からの要望に基づき、調整の結果決定した。

○感染症対策として

- ・ 事前に手洗い・マスク着用への協力をお願い
- ・ 消毒用アルコール (手指用) の設置 (受付) と検温の実施
- ・ 参加者名簿の作成
- ・ 事前及び事後の消毒の徹底 (遊具・楽器・子供用椅子・テーブル等)
- ・ 30分に一度の換気
- ・ 例年実施している懇談会 (茶話会) の中止
- ・ 密にならないような活動プログラムの工夫と人数制限

- 本学がオンライン授業になった場合は、中止とする。

【資料2】

211127 (Sat.) 児童相談センター企画「親子ふれあい音楽あそび」

活 動	ねらい	具体的な動き（支援・準備等）
15：30～		
0. 自由あそび 大型遊具・トランポリン 楽器コーナー 片付け…♪アンパンマン	○場（物的・人的環境に慣れる。 ◇子どもたちの実態把握 ⇒セッションへの参加意欲を促す。	・親子での遊びを見守り、無理に誘わない。 ・今向かっている遊びが完結できるように声をかけ（「こっちこっち」「あと少し」etc.）、最後までできたら一緒に喜ぶ。 ・「アンパンマン」が聞こえたら、大型遊具等は8110へ移動させ、セッションの場に誘う。
16：00～		
1. 始まりの歌 ♪手とつないでこんにちは ♪はずかしがり屋のうさぎさん	○始まりの意識（着席・Th. への注目 etc.） ◇個別にかかわりながら、徐々に集団活動へ誘う。	・子どもたちの間に大人が入り手とつながが、嫌がる場合は無理強いしない。 ・呼名する際には、場合によっては軽くモデリングを行う。 ・うさぎが出てきた際には、驚きの表情を子どもに見せる。
2. 手遊び・ふれあい遊び ♪一本橋こちょこちょ ♪おすわりやす ♪さかながはねて ♪どっこダンス	○親子のふれあい ○期待感や因果関係理解の基礎	・動きのモデリング ・間を重視し、ゆっくり関わる。 ・状況を見ながら、徐々にテンポを変えるので、それに合わせて集団をリードする。
3. リズムムーブメント 歩く、止まる、走る、 ゆっくり、くねくね	○全身の粗大運動 ○音と動きの関係を捉えた自己調整	・基本的にいっしょに動き、大きな動きで親へのモデリングになるようにする。
4. 楽器活動① ◎ギャザリングドラムで ◎鈴ロープで ♪スーパーカリフラジリス ティックエクスピアリドー シャス	○発散 ○触覚・固有覚刺激 ○手の操作 ○音楽との同期の体験	・ギャザリングドラムの準備 ・子どもが手を太鼓の面に置けるように促す。動きは強要せず、大人が叩いて振動を体験できるようにする。 ・「いっば〜い」で自由に連打する。 ・音楽に同期した動きは大人が作り出し、ロープを握った子どもに伝わるようにする。
～小休止・水分補給～		
5. パネルシアター ♪秋のかばん	○視覚的な集中の場 ○物語理解の基礎 ○問いかけのイントネーション	・パネルの準備 ・動物に合わせた動き（りす…ちよちよこ、くま…ゆっくりetc.）を心がける。 ・子どもたちが集中して見られるように、近づけたり、視線を確認しながら動かしたりする。
6. リラクセーション ♪しあわせ ♪ゆりかごの歌	○クールダウン	・歌詞の揭示
7. 楽器活動② ♪落ち葉のうた	○自己決定（自ら楽器に触れる。） ○静謐な空間の体験	・なるべく動きを減らし、鎮静的な雰囲気の間になるようにする。
8. 終わりの歌 ♪さよならまた会おうね	○終わりの意識	・語りかけるような歌声でうたう。控えめな動きを心がける。
16：40 終了予定		

【資料3】参加者からの感想

- 月齢差がある中、みんなが一つの取り組みができてることがすごいと思いました。うちの子もがあんなに落ち着いてあの場に溶け込んでいる姿を見たのは初めてです。
- スタート前の遊具が子ども達全員のテンションを上げたと思います。これこそが「導入」部分の環境構成だと勉強になりました。
- 補助の学生さんがとてもいきいきしており、一生懸命やってくさってました。Aさんは私の研究部会に入っている学生でよく知っているのですが、あんなに表情豊かで声もはっきりとしていた姿は初めて見ました。学生さんの子どもへの配慮（特に安全面）がかなりしっかりしていたので、安心してこどもの活動を見ることができました。
- 親視点でこのような活動に参加させていただくのは初めてだったのですが、我が子を見て、「幼稚園でもこんな感じなのかな？」という観点で姿を見れたことがとても大きかったです。特に幼稚園ではお帳面がないので、活動の様子が全く見えてなかったため、非常にありがたかったです。
- 時間の長さがちょうどよかったです。
- 親子3人、とても楽しい時間を過ごすことができました。
- 子どもにとっては初めての場所・初めて会う人が多い中で泣きもしましたが、次第に笑顔を見せたり自由に動き回れたりできるようになっていったので、先生方や学生さん方が楽しい雰囲気を作ってくださったおかげだと思います。
- 「おすわりやす、いすどっせ」の遊びは子どもが喜ぶので、家に帰ってから何度もしています。
- 家族の者も他のパパママと話ができただけでもあり良い刺激になったようでした。新たな遊びや見たことのない楽器を楽しむ子どもを見て嬉しかったようで「毎週あったらいいのに…」と申しおりました。
- コロナの影響で子ども関連のイベント参加に制限がある中、いろんなお子さんと関われる機会が持てたのはありがたかったです。今回はみんな年上の子たちでしたので、1、2年先の子どもの姿を想像することができました。
- 活動の際の子どもの反応が見られたのは嬉しかったです。
- たにっこりんでは個別に遊ぶのがほとんどですので、一緒にお話を聞いたり音楽に合わせて体を動かすのは新鮮でした。
- また機会がございましたらぜひ参加させていただきたいと思います。
- うちの子もは言語がまだ出ていないためか、単に落ち着きが無いだけか、なかなか座って大人しくしていることがまだ難しいようでしたが、動物が出てくるパネルシアターなどは比較的落ち着いて聞いておりましたし、他にも興味関心を惹き付けるための色々な工夫を凝らしてくださったお陰で、終始楽しそうに過ごしていたように思います。
- またこうした機会がございましたら是非参加させていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

【資料4】学生の記録

《Aさんの記録》

～気付いたこと～

自由遊びの時に楽器コーナーで遊ぶ子どももいれば、トランポリンや大型遊具で遊ぶ子どももいるということが分かりました。また、ピアノを弾いたり箱の中にある楽器を取り出して鳴らすなどの行動をするのだと思いました。大型遊具などの片づけをしている時に、子どもたちが片付けしているのに気づいて手伝ってくれた。

椅子に座っての活動の時に、子どもはずっと椅子に座っているのが難しいことが改めて分かりました。一本橋こちょこちょやおすわりやすの時に子どもが楽しそうに活動していました。またリズムムーブメントでは、音楽に合わせてたり止まったりする動作をすることができていました。音楽が鳴りやんだら子どもがピアノのところに顔を向けていました。鈴ロープでは子どもたちが楽しそうに鈴を鳴らしていました。先生の動きに真似するところもありました。先生が違う動きをする前に、次の動きの声掛けをしていました。パネルシアターの時にかばんを子どもたちの近くに持っていくと、興味を持ち触ろうとしてきました。パネルシアターの最後のところで出した松ぼっくりに興味を持ち、それを手の中でコロコロと転がしてみたり、パクっと口の中に入れる動作の真似をしたりしていました。

～感想～

子どもたちといろいろな活動をしたことで子どもたちについて知らなかったことを知ることができました。先生方の子どもたちへの接し方や声掛けについてもいろいろと学びました。自分が子どもと関わる時には、短い文章で話すということの大切さを知りました。これは実習に行ったときを実践してみたいと思います。また、実習前に子どもと関わることでできて、すごくうれしかったです。このような子どもと関わりがある活動に参加してみたいです。

《Bさんの記録》

～個々の子どもたちとの関わりの中での観察・自分が行動したこと（⇒）～

Cちゃん

- ・歌っていた曲（どんぐりころころ、アンパンマン）
- ・料理をしている時（ままごと）「ごましおふって♪」がお弁当の歌だった。
- ・歌をうたうことが好きなかなと感じた。
- ・ドレミマツトの色を言いながら踏んでいて、気に入っている様子だった。
⇒オレンジやみどりなど、色が出てこない言葉は援助したら、繰り返し言ってくれた。
- ・「あー！」が言いやすいのか好きなのか、他の色より元気だった。

Dちゃん

- ・片づけをする時に、手伝う姿が見られた。
⇒「持ってきてくれてありがとう。」「ここにおいてくれる？」など具体的に伝えることを意識した。
- ・床の様子が気になる様子だった。
⇒「ここにもある！」「大きいね。」「小さいね。」と代弁した。
- ・トランポリンでは楽しそうに飛んでいて、鏡に自分の姿が映っているのを見て、不思議そうに見つめていた。

Eちゃん

- ・きゅうりやりんご（シェーカー）を振って遊んでいる姿が見られた。

⇒「みどり」「あか」「きゅうり」「りんご」と色や形、名前を伝えた。

- ・音が気に入っている様子だった。
- ・床の模様が気になる様子だった。 ⇒「まるだね。」「ボコボコ」「さらさら」など代弁した。
- ・周りの友達が活動しているのを見て、興味が出てくる様子が見られた。

（「楽しかった人ー?」「はーい!」など、僕にもやってほしいと自分から席に戻ってきていた。

Fちゃん

- ・つたい歩きがとても上手だった。
- ・人や物に興味を示している印象だった。
- ・ギャザリングドラムでは、最終的に触ったりトントンしたりして遊んでいる姿が見られた。
⇒「これは怖いものではないよ。」と感じられるように、本人の前で楽しそうに（楽しく）音を鳴らした。
大きい音に驚かないように、小さい音を出すのを意識した。

～感想～

先日の「親子ふれあい音楽あそび」のお手伝いをさせていただいて、保育実習では学べない、親子で遊んでいる様子や付き添いの方への声のかけ方等を知ることが出来ました。

保育実習では、保育者と子どもとの関わりをみて学ぶことが主だったが、今回の親子ふれあい音楽あそびでは、親と子どもの関わりをみる事が出来ました。子どもは初めての部屋だったり久しぶりの環境だったりしたかもしれないけれど、信頼している親がいることで徐々に安心して過ごしている様子を見て、子どもにとって親はとて大きくて安心できる存在なのだなと感じました。

子どもたちが来た時に、保育園とは違う雰囲気です少し緊張してしまい自分から声を掛ける事が出来ませんでした。子どもたちもいつもと違う環境で緊張していると思うのに、私が緊張してはいけないなど反省しました。しかし、子どもからコミュニケーションを求めてくる事も沢山あり、一緒に遊ぶことが出来ました。また、子どもたちが初めてのサーキットの形で眺めているだけの時に、興味がでて一緒に遊べるように、先生方がサーキットで遊んでいる姿を見て子どもたちが興味を示し走り、一緒に音を鳴らしたり遊んだりしている様子を見て、これは遊べる物だよと一つのモデリングなのだなと感じました。「どこどこダンス」では、「あたま」や「おめめ」等子どもたちがその部位に手を当て理解ができるように、次の歌にいくのを待ったりしていました。親子間でのコミュニケーションなので、私は子どもに「ここだよ」と手はあまり出さずに子どもに手を添えながら見守りました。「さかながはねて」では、端で活動している子どもに対して、私が魚になって遊びに行きました。喜んでいる様子がみられて、嬉しかったです。「リズムムーブメント」では、少しかがんで一緒に歩いたり走ったりしながら「じょうず!」「はやいね」等積極的に声を掛けました。次このような活動があれば速さを伝えるだけでなく「くまさんだ」と「へびさんだね」等動物に例えていきたいです。また、ギャザリングドラムでは、最初驚いている子どもも、大人が叩いて楽しんでいる姿を見て、ちゃんと叩いて段々手のひらやグーで叩いている姿をみて感動しました。

終わった後は、「楽しかったよね」と強制している様な言い方をしている親に対して、「強制しないで大丈夫ですよ」と声をかけていたり、「成長していますよ」と一人一人の様子を親に伝えていて、活動だけに集中するのではなく、子どもたちの様子もしっかりみて、安心して子育てに取り組めるように支援していきたいと思いました。

貴重な経験が出来て、とても楽しかったです。また機会があれば積極的に参加したいです。

【活動の様子（写真）】

